

# 令和4年度長野県博物館協議会役員会・総会等 実施報告書

令和4年6月10日

事務局

## 1 役員会

(1)日 時 令和4年5月26日(木) 10時30分～11時30分

(2)会 場 須坂市メセナホール 会議室

(3)出席者 14名 会長1名、副会長2名、理事6名、  
監事2名、事務局3名

※都合により理事2名の代理が参加

(4)内 容 協議事項 議長に笹本会長を選出



### ○理事改選に当たって

本年度は役員改選となり、令和6年5月までの役員を、資料名簿案<別紙>のとおり提案し、了承を得た。

### ① 令和3年度事業報告及び決算について

「博物館等関係職員研修会」は、「博物館等の災害への備えと対応」が大きな課題ではあったが、新型コロナ感染防止とういうことで実施することはできなかった。「災害支援対策事業」では、昨年度は、豪雨や地震があったが、支援金を送付させていただくことはなかった。「新型コロナウイルス感染防止への対応」として、休館情報や感染予防対策についてアンケートを実施し、情報の共有に努めたことを説明。

昨年度の予算執行に際しては、令和3年度事業として、長野県ミュージアムガイドの製作として、421,300円を執行した。ガイドブックは、今総会で承認していただけたら、早急に配送をしたいと説明。花岡監事から監査報告。質疑はなく、総会議案とすることを確認した。

### ② 役員改選について

資料にあるように総会で提案することを説明。

### ③ 令和4年度事業計画案及び予算案について

「職員研修会と実務研修」は、令和5年2月中旬の実施を予定。研修内容については、昨年度計画した新型コロナ感染防止のため中止となった研修を2日間に分けて実施したいと説明。「災害対策支援事業」は、一昨年度の台風19号災害支援の継続をはじめ、災害発生時の支援活動を、新型コロナウイルス感染症に対しても、コロナ対策の支援など可能な範囲を検討したいと説明。

会報『博物館の友』では、ペーパーでもいただきたいとの声も多く、今年度、ペーパーでも配布できるよう2回の会報誌代を計上。また、お互いに加盟館の視察のため会員証も製作したい。会報と会員証代を合わせた見積り額を、印刷製本費に130,000円を計上したことを説明。

④ 令和5年度総会の当番館（開催地）について

- ・今年度が北信なので、来年度は本来であれば南信となるが、来年度の令和5年度は、北信越博物館協議が、長野県で開催する予定。事務局案としては、昨年4月にリニューアルオープンをした「長野県立美術館」にご協力いただきたく、松本透（まつもと・とおる）館長にも内諾をいただいている状況。予定では、令和5年6月1日・2日開催を提案し、了承を得た。

⑤ その他

「前年度の最も優れた展覧会に対して『最優秀企画展』の表彰をすとか、最も優れた図録に対して「最優秀図録」の表彰をすとかはいかがか？館や学芸員の努力や成果に対して認めてあげるといふこと、それを広く県民に周知することが必要。ぜひ、ご検討を。」という提案を受け、理事に意見を求めた。

○表彰・選考の仕方について、牧内飯田市博副館長より

- ・協議会としてするのなら格が上がるので、募集の仕方、やり方など手続きはどうするのか？

○会長より

- ・推薦されたものをしっかり見るのは不可能。学芸員の方に、今までのものでよいものを推薦してほしい。それを基に、会長が見たり、事務局で相談したりしたい。また、見方は人によって違うが、とにかくメールなどを入れていただきたい。まずやっていることを大切にしたい。一生懸命やっている日の当たらない館を紹介していきたい。

○木下松本市立博館長より

- ・件数はどの位にするのか、賞なら副賞はないのか、そうなると、総務費だけで足りるのか、課題がいくつかある。

○事務局より

- ・まず、このような形でやらせていただきたい。1・2をつけられない時、いただいたものを紹介していく。その次に、投票なり、いい企画展だということを伝えていきたい。

○木下松本市立博館長より

- ・事務局で決めるのは大変。来年度は、候補をここで（役員会）見ていただき、決定したことを総会で伝えていただき、表彰は後でもよいのでは。

○会長より

- ・博物館の活動を盛りあげていくことはしたい。まず、候補を頂きたい。吸い上げたものを広げていきたい。来年の総会のその場で発表し、表彰は後で贈るといふことだが、「こんなものがよかったよ」「こんなものがあるよ」など、みんなが元気になっていくことが大切。活性化したい。

○木下松本市立博館長より

- ・長野県中が深く関わっていることについて、一斉に協力し合って調査することはできないか。そのことについて一斉に発信できる。個々に対応するのではなく、一斉の態勢について提案していきたい。県博協として、例えば、「盆行事」とか全県で調査できるものがありましたら、各館の協力を得ながら取り組めればと思うが、予算も難しいとは思いますが。

- 事務局より令和5年度北信越博物館協議会の日程について
  - ・5年くらい前の北信越博物館協議会と同様の日程を考えている。1日目の午前に県博協の役員会と総会をし、午後に北信越博物館協議会の総会を行いたい。2日目は県美集合とし、市内博物館等に見学をして昼頃に解散と考えていると説明。

## 2 総会

- (1)日 時 令和4年5月26日(木) 13時15分～13時55分
- (2)会 場 須坂市メセナホール 小ホール
- (3)参加者 52名 (含む 須坂市長、文化財・生涯学習課長)
- (4)内 容

会長挨拶 笹本正治(長野県立歴史館特別館長)

今年度もコロナの影響がまだ続いているが、昨年度のアンケートの中に優れた展覧会に対して『最優秀企画展』の表彰をすとか、館や学芸員の努力や成果に対して認めてあげたらという意見がありました。みんなが元気になれるよう会を盛り上げていきたいと考えている。力をお貸しいただきたい。

地元代表 三木正夫 市長

市の博物館のあり方について2018年冬に基本計画を作成・会長に参加していただき、10数名の館に委員になっていただいた。そして、市の中に様々な博物館の要素があり、次の世代に伝えていく、守っていくことではなく、「まるごと構想」は、次の世代に新しい文化を取り入れていくこと、プラスアルファの場を設けることが大切。新しい文化を作る=今ある物の中に存在していることを教えていただいた。

久保友二 課長(長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課 課長)

博物館法の改正による施行が来年の4月。改正法の主旨は、博物館の役割の多様化、設置者の多様化に伴う要件の見直しで、各館にも5年間に新しい登録が必要となる。国から出されたものを県が伝えていく。連携して取り組んでいきたい。

議事 議長に笹本会長選出

- ① 令和3年度事業報告及び予算について
- ② 令和4年度事業報告及び決算について

昨年度の予算執行に際しては、令和3年度事業長野県ミュージアムガイドの製作。ガイドブックは、早急に配送をしたいと説明。花岡監事から監査報告。質疑はなく承認された。

役員改選については、資料中の方々を承認していただいた。

令和4年度事業計画案についても全て承認。予算案についても会報『博物館の友』の2回の会報誌代やお互いに加盟館の視察のため会員証も製作を説明し、承認された。

令和5年度総会の当番館(開催地)については、来年度の令和5年度は、北信越博物館協議が、長野県で開催する予定。事務局案の、「長野県立美術館」にご協力いただきました。予定では、令和5年6月1日・2日開催を提案し、了承を得た。の他

「前年度の最も優れた展覧会に対して『最優秀企画展』の表彰をすとか、最も優れた図録に対して「最優秀図録」の表彰をすとかはいかがか？館や学芸員の努力や成果に対して認めてあげるといこと、それを広く県民に周知することが必要。ぜひ、ご検討を。」という提案を受け、理事会で推進する方向であることを報告。会員に意見を了承を得た。

### 3 研究会

- (1)日 時 令和4年5月26日(木) 14時00分～15時35分
- (2)会 場 須坂市メセナホール 小ホール
- (3)参加者 52名 (含む 須坂市長、文化財・生涯学習課長)
- (4)内 容 「須坂まるごと博物館構想について」

#### ①講師 小林 宇彦氏(須坂市立博物館 館長)

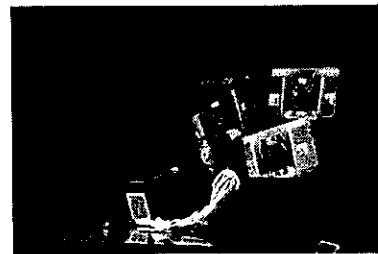
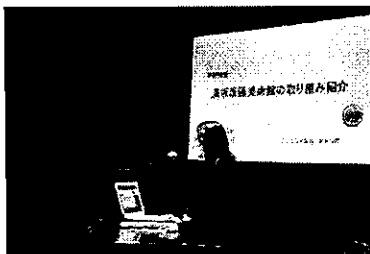
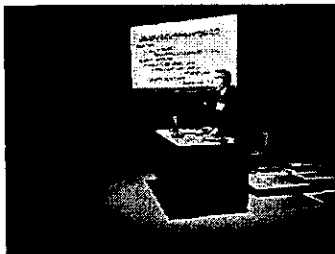
文化施設が点在しつながりが少ない点の見直しからスタート。1時間以内で市内のどこにも行ける。市内の様々な資源をつなぐ=「ひと」「もの」「こと」をストーリーでつなぐ。市全体の歩みを一か所で学ぶことはできないが、俯瞰できる機能を持たせる。従来の枠組みからの脱却、「出かける博物館」への転換、「物を見せる」ではなく「もので“めせる”」展示等、市民との関わりが成長につながっていることを報告していただいた。

#### ②講師 新海 徹 氏(世界の民族人形博物館)

各館が館の魅力や特徴を活かすことが大切と考え、人形博物館のアピールポイントを「民族衣装から新たなファッションを生み出す」「世界の人形」と考えた。また、施設のアピールポイントを活かした展示やワークショップを立案し、人形博物館でしか体験できないワークショップの実践事例「ハロウィン衣装作り」を発表していただいた。最後は、観光誘致でのアプローチについても取り組みを話していただいた。

#### ③講師 梨本 有見氏(須坂版画美術館・平塚運一版画美術館)

小林朝治のコレクション中心の展示だが、版画に興味をもってもらえるよう教育普及・ワークショップイベントとして、版画教室、子ども工作教室、親子のアトリエ等に取り組んでいるが、好評。また、広報活動もインターネット、SNS、印刷物で力を入れている。また、ボランティアの活用も取り入れている。今後は、動画製作でのアピール、継続性のある次につながるような事業展開、外とつながっていけるような美術館を目指したいと報告していただいた。



#### 4 視察研修

(1)日 時 令和4年5月26日(木) 10時00分～17時00分

(2)会 場 須坂市内の以下の館の8館

須坂市立博物館、笠鉾会館ドリームホール、須坂クラシック美術館、  
世界の民族人形博物館、須坂版画美術館・平塚運一版画美術館、  
豪商の館田中本家博物館、旧越家住宅、ふれあい館まゆぐら

(3)参加者 延べ人数76名

(4)内 容 「須坂まるごと博物館構想」を実際に各自移動で見学を行った。

参加者からは、午前中に市内を視察したので、午後の研究会での事例報告の話  
が分かりやすかったという声をいただいた。

